

Nara Women's University

SSH その驚くべき効果

| | |
|-------|--|
| メタデータ | 言語: Japanese 出版者: 奈良女子大学附属中等教育学校 公開日: 2009-12-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 植野, 洋志 メールアドレス: 所属: |
| URL | http://hdl.handle.net/10935/1008 |

SSH その驚くべき効果

奈良女子大学附属中等教育学校が2005年度から5年間の指定を受けたスーパーサイエンスハイスクール（SSH）のプログラムが、はじめの2年間の活動を完了しようとしている。ここに本年度の活動内容をまとめた研究開発実施報告書をお届けする次第である。

最初に本校のSSHプログラムの特色を示す。

- 1) 文系・理系に偏らない基礎学力を重視する
- 2) 中高6年一貫教育校の特色を活かして前期課程生（中学生）も参加する
- 3) 身の回りの現象に興味を持つことでサイエンスする心を養う「生活科学的素養」を育成する

この基本理念をもとに、リテラシー教育の構想を形成することで、理数科を理解できる文化人の育成につながるのではないかと考えている。本校の目指す取り組みは、学力低下、理科離れ、そして、大学入試制度や人材育成という教育界での課題とされており、しかも、多面的な対応を迫られている課題に対して、一片の切り口を提供しようとするものである。本報告書にその一端を読み取っていただければ幸いである。

本年度は、理数講義プログラム、サイエンス基礎講座などにおいては、おそらく人生で一度しか聴講できないような話を聞くことができ、他校との交流、研究発表会、サイエンス夏の学校などの参加者は多くのことを学んできたと思う。校内では、サイエンス研究会を中心に多くの成果があがっており、「物理チャレンジ2006」にて2名の生徒が銀賞と優良賞を受賞し、国際物理オリンピックの日本代表候補に選ばれている。さらに喜ばしいことは、前期課程生が物理、化学、生物、数学の各分野に熱心に取り組み、独自の活動を展開して成果をあげていることである。それぞれの研究成果は、2007年2月16日の「SSH生徒研究発表会」にて披露されたが、特許申請につながる成果があることは特筆すべきであろう。

多くの保護者のSSH事業への参加も本校の特色であろう。学校活動を理解してもらおう上でも重要であるが、保護者の関心は生徒へも伝播し、より潜在的な能力を引き出す手助けにもなると考えられる。また、学校が一丸となってSSHプログラムをサポートする体制づくりが行われたことも意義深い。さらに、本学の場合、母体である大学、特に理系の学部・研究科の強い後押しがあることで、SSHプログラムのレベルが向上できていることは喜ばしい。

末筆になりましたが、この一年間、SSHの活動にご協力いただいた各研究機関の先生方、的確なご指導をしていただいたSSH運営指導委員の先生方、事務手続き等でお世話になった文部科学省と科学技術振興機構の皆様、そして大学の教員の方々に対して、本校教職員を代表してお礼申し上げます。

奈良女子大学附属中等教育学校長
(生活環境学部教授)

植野 洋志